

第4回 東静岡地区まちづくり協議会

議事次第

日時：令和7年5月22日（木）
13時30分～15時00分
場所：静岡市役所 静岡庁舎
本館3階 第1委員会室

1 開 会

2 前回会議の振り返りと令和7年度の進め方 資料1 資料2

3 報 告

(1) アリーナの整備に向けた取組状況 資料3

(2) 交通渋滞対策の取組状況 資料4

(3) 用途地域等の変更に向けた取組状況 資料5

(4) 新県立中央図書館の整備に向けた取組状況

4 議 事

東静岡地区まちづくり基本構想（案）について 資料6 資料7

5 閉 会

第4回 東静岡地区まちづくり協議会 委員名簿

No.	氏名	所属・役職等	専門・役割
1	中村 直保	静岡市自治会連合会 会長	地域代表
2	杉山 輝雄	千代田学区自治会連合会 会長	地域代表
3	柴 多喜男	伝馬町学区自治会連合会 会長	地域代表
4	大木 義文	西豊田学区自治会連合会 会長	地域代表
5	田宮 一彦	東豊田学区自治会連合会 会長	地域代表
6	平井 崇士	東海旅客鉄道株式会社 総合企画本部 企画開発部 担当課長	交通事業者（JR）
7	池谷 直倫	静岡鉄道株式会社 未来事業創造部 グループ企画課 課長	交通事業者（静岡鉄道）
8	古居 武司	国土交通省 中部地方整備局 静岡国道事務所 事業対策官	道路管理者（国道管理者）
9	飯田 将人	静岡中央警察署 交通第一課 課長	交通管理者（葵区）
10	浦野 雅則	静岡南警察署 交通課 課長	交通管理者（駿河区）
11	山田 司	静岡県 スポーツ・文化観光部 企画経理課 課長	静岡県（県有地活用）
12	石川 すみ江	静岡中央子育て支援センター 所長	子ども・子育て
13	西 美有紀	一般社団法人草薙カルテッド コミュニティマネージャー	エリマネ・産学官連携
14	遠藤 新	工学院大学 建築学部 まちづくり学科 教授	学識経験者（座長）

事務局	静岡市 都市局 都市計画部 都市計画課
-----	---------------------

第3回東静岡地区まちづくり協議会（令和7年1月30日） 主な意見と対応

(1)「東静岡地区まちづくり基本構想」について

○自動車の交通処理について

主な意見	対応
・静岡市は南北の道路が弱く、長沼大橋辺りで渋滞が生じている。今後のアリーナ等の建設に伴って車の利用が増加すると思うので、車の処理や駐車場について検討してほしい。	⇒アリーナへのアクセスは車でなく公共交通機関を利用させていただくことを考えており、一般車用の駐車場を設けない予定である。市としても渋滞対策を進めたいと考えており、交通形態も考慮しながらまちづくりを進めていく。
・地元では現状の渋滞を解消してほしいとの声が挙げられている。	⇒渋滞の解消に向けて、 <u>静岡県警との協議による信号サイクルの変更等の対策を実施した。</u>

○公共交通について

主な意見	対応
・地域企業との連携を図り、公共交通の利用を促すのはいかがか。	⇒アリーナの運営事業者や周辺事業などと連携し、公共交通の利用促進を検討していく。
・南北の公共交通で考えていることがあれば教えていただきたい。	⇒東静岡地区と周辺を結ぶ移動手段を考えなければならないことを課題として認識している。 <u>東静岡地区から各拠点を結ぶように、新たなモビリティも含めて検討していく。</u>
・モノレール等の整備は考えているのか。	⇒規模の大きいハード整備を行うことは考えていないが、将来の新たなモビリティを想定して南北軸の強化を進めたい。

○ペDESTリアンデッキについて

主な意見	対応
・ペDESTリアンデッキで自転車が通行できる環境にするなど、自転車でも移動しやすい環境にしてほしい。	⇒自転車は車と同じ分類になることから、現段階でペDESTリアンデッキでの自転車の利用は難しいが、自転車でも回遊しやすい環境を検討していく。
・ペDESTリアンデッキの上部を賑わいの創出に活用できるのではないか。	⇒ペDESTリアンデッキは移動するためのものとしてだけでなく、まちづくりの中で有効的に活用することを検討していく。

○施設について

主な意見	対応
<ul style="list-style-type: none"> ・図書館からは日常性を感じる一方で、アリーナは非日常感が強い。そのため、アリーナの日常使いに関する内容をコンセプトに組み込むことで市民の方も利用しやすくないのではないか。 	<p>⇒アリーナの基本計画に基づき、アリーナの日常的な利用がなされるように取り組んでいく。</p>
<ul style="list-style-type: none"> ・グランシップや図書館、アリーナのイベントの同時開催を考えたときに、東静岡駅のキャパシティは足りるのか。 	<p>⇒3施設のイベントが同時開催した場合のシミュレーションは実施していないが、ハードだけでなくソフト対策も組み合わせた対応について、アリーナ運営事業者等と連携して検討していく。</p>
<ul style="list-style-type: none"> ・アリーナや新図書館などの工事が集中しており、安全性や近隣の道路環境への影響を伺いたい。 	<p>⇒地域の方の生活環境に配慮しながら工事を進めていく。</p>

(2) 用途地域等の変更について

主な意見	対応
<ul style="list-style-type: none"> ・前回の話し合いの場に用途地域を変更することに反対の方が不在だったので、再度話し合う機会がほしい。 	<p>⇒今後も地域への説明を続けていく。</p>

(3) 協議会委員について

主な意見	対応
<ul style="list-style-type: none"> ・まちづくりの視点に「子ども」「若者」というキーワードが入っていることから、その分野を専門とする方の協議会への参画等を検討していただきたい。 	<p>⇒「子ども」の観点からは、<u>静岡中央子育て支援センターの石川氏</u>に、「若者」の観点からは、<u>学生と連携した取組を実施している草薙カルテッドの西氏</u>に、<u>新たに協議会委員としてご就任いただいた。</u></p>

■ 東静岡地区まちづくり協議会

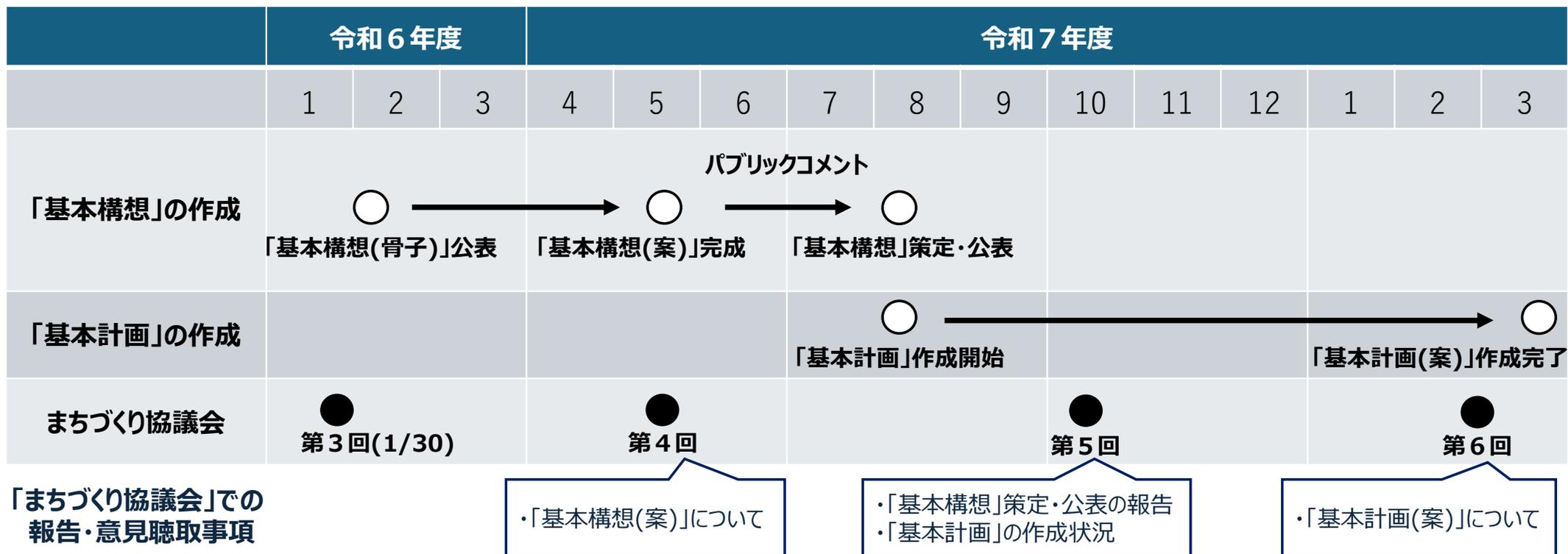
・東静岡地区のまちづくりを推進していくにあたり、地域の代表者や関連する事業者等で議論し、幅広いご意見をいただくことを目的として実施する。

■ 東静岡地区まちづくり基本構想

・アリーナや新県立中央図書館の整備等の機会を活かした、東静岡地区の新たなまちづくりに向けて、めざす将来像やまちづくりの方針、主要プロジェクト等を示し、社会全体の力による「共創」のまちづくりにつなげる。

■ 東静岡地区まちづくり基本計画

・「基本構想」で描いためざす将来像の実現に向けて、より具体的なまちづくりの事業や制度活用等について示し、「公民共創」のまちづくりをより一層推進する。



アリーナ整備に向けた取組状況

1 要旨

静岡市は、これまでの市内の施設では実現できなかった、最高峰のプロスポーツの試合や大規模なコンサートが開催可能な多目的アリーナを、JR 東静岡駅北口市有地に整備することをめざしています。

人口減少・少子化が市の大きな課題の中、アリーナは、まちの魅力向上、文化振興、地域経済の活性化など、大きな経済社会効果を生むとともに、市民に新たなスポーツ・エンターテインメントコンテンツを提供し、ワクワク・ドキドキといった感動体験をもたらします。

令和6(2024)年度は、市がめざすアリーナとはどのような施設なのか、どのように事業を進めるのか、などをまとめた「静岡市アリーナ基本計画(案)」を2024年10月に公表後、パブリックコメントにより市民の皆様からいただいたご意見を反映し、2025年1月に「静岡市アリーナ基本計画」(<https://www.city.shizuoka.lg.jp/s5423/s013099.html>)を策定しました。



また、アリーナの整備に必要な予算(2026~2059年度の債務負担行為300億円)を、静岡市議会令和7年2月定例会に諮り、議決を経てアリーナの事業化(予算化)に至りました。

令和7(2025)年度は、アリーナの実現に向けて、アリーナの整備・運営を担う事業者の募集・選定に取り組み、2030年春のアリーナ開業をめざし、事業を進めていきます。

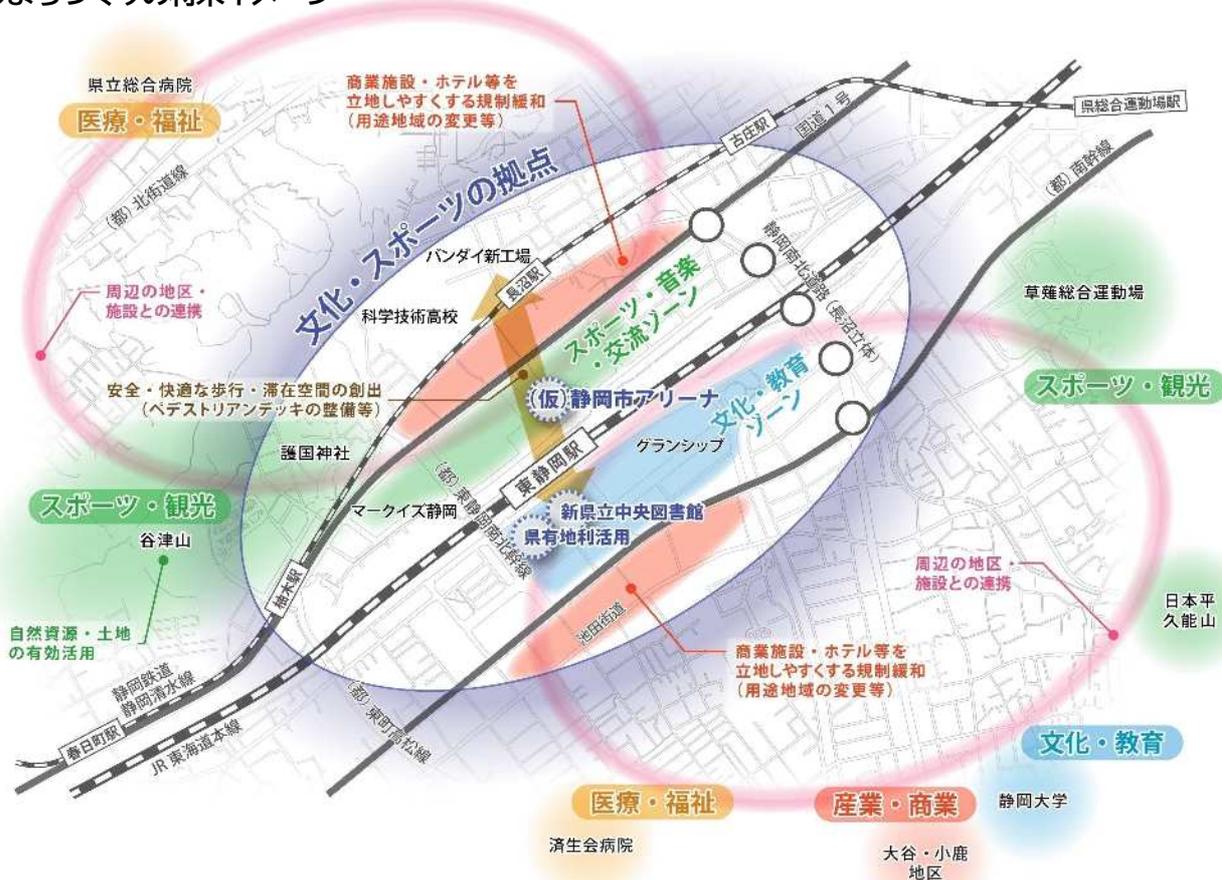
2 アリーナについて

(1) 東静岡のまちづくりとアリーナ …基本計画P25~29

JR 東静岡駅周辺では、アリーナや新県立中央図書館の整備が予定され、まちづくりの絶好の機会を迎えています。

アリーナの整備とまちづくりを一体的に進めることで、相乗効果により、東静岡は文化・スポーツ・エンターテインメントが体験できるまち、商業、交通、文化・教育等の充実した都市機能と快適な住環境を兼ね備えたまちに発展します。

●まちづくりの将来イメージ



(2) アリーナの概要 …基本計画P30～47

これまでの市内の施設（中央体育館・市民文化会館など）では、席数や設備の関係から、最高峰のプロスポーツの試合や大きな音楽イベントは開催できませんでした。これらの大型イベントが開催できるよう、アリーナの席数は、プロスポーツの試合や、大きな音楽イベント（ツアーなど）に対応可能な **8,000席以上**とします。

●めざすべきアリーナ像

- 地域のためのアリーナ** ・東静岡の文化・スポーツの拠点になるとともに、地域のまちづくりや防災にも役立っています。
- 集うアリーナ** ・市民、市外や県外から人が集まり、新たな交流や経済効果を生みます。
- 選ばれるアリーナ** ・いろいろな演出ができて、イベント会場として使いやすい、主催者や観客から選ばれるアリーナとします。
- 観るアリーナ** ・バスケットボールやバレーボールなど、最高峰のプロスポーツの試合や、大きなエンタメイベントを実現します。
- 持続可能なアリーナ** ・民間のアイデアを活かした運営やサービスにより、将来にわたり魅力があり、収益を生みだすアリーナとします。



アリーナのイメージ(沖縄アリーナ)



バスケットボール



バレーボール



コンサート



光と音の華やかな演出

(3) アリーナの防災機能 …基本計画P38～39

アリーナには、大型トラックがそのまま屋内(メインアリーナ)に入れる搬入口やコンクリート製の床、VIPルームなどの個室、セントラルキッチンを設けます。地震や風水害などの災害のときは、これらの設備が**緊急物資集積所や避難所**として活用できます。



大型トラックが通れる搬入口 (SAGAアリーナ)



VIPルーム・プレミアムラウンジ(観戦だけでなく飲食も楽しめる個室) (SAGAアリーナ)



セントラルキッチン (沖縄アリーナ)

(4) アリーナの事業手法 …基本計画P48～52

アリーナの整備・運営は、PFIの一種である、「BT+コンセッション方式」により実施します。この方式では、アリーナは公共施設として、市と民間事業者が費用を分担して建設し、完成後は市が所有し、民間事業者が運営します(公設民営)。市は、運営する権利(運営権)を民間事業者の有償(運営権対価)で譲渡し、この運営権対価を建設費用にあてることで、建設費用の市の負担を減らします。

事業者は、自由な発想でアリーナを運営し、魅力あるサービスを提供し、多くの人が楽しめる場所とするとともに、収益を生み出し、アリーナの運営費を市が負担する必要はなくなります。

(5) 事業スケジュール …基本計画P52

アリーナの投資効果を高めるため、できるだけ早くアリーナをオープンすることが重要です。もっとも早く進んだ場合として、右のスケジュールを想定しています。

- 2025～2026年度：事業者の募集・決定
- 2026～2029年度：設計・建設工事
- 2030年春：アリーナのオープン

交通渋滞対策の取組状況

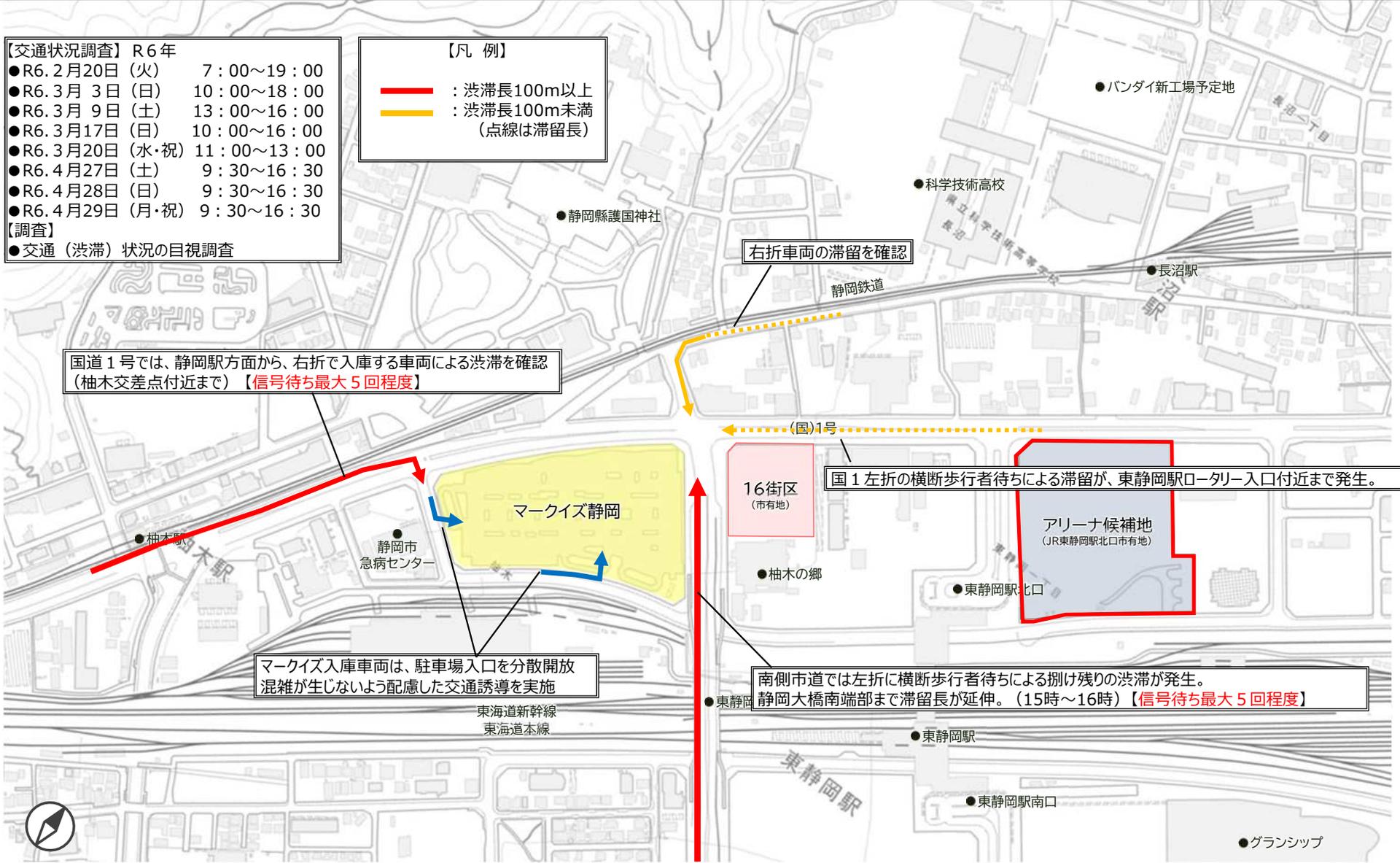
令和7年5月22日

渋滞状況の把握 R6.2月～R6.4月

- 【交通状況調査】R6年
- R6.2月20日(火) 7:00～19:00
 - R6.3月3日(日) 10:00～18:00
 - R6.3月9日(土) 13:00～16:00
 - R6.3月17日(日) 10:00～16:00
 - R6.3月20日(水・祝) 11:00～13:00
 - R6.4月27日(土) 9:30～16:30
 - R6.4月28日(日) 9:30～16:30
 - R6.4月29日(月・祝) 9:30～16:30
- 【調査】
- 交通(渋滞)状況の目視調査

【凡例】

- (赤線) : 渋滞長100m以上
- (黄線) : 渋滞長100m未満 (点線は滞留長)



横断歩道の廃止検討（静岡県警⇔道路部）
⇒国道横断歩道の廃止を検討したが、安全性に課題があり、地元自治会相談の上、実現不可と判断

③信号サイクルの見直し（静岡県警⇔道路部）
⇒信号現示の調整を検討し、国道右折時間について3秒増（5/8～実施）

②マークイズ静岡駐車対策（マークイズ静岡⇔道路部）
・チケットレス化
⇒駐車場のチケットレス化により駐車の手円滑化
・交通誘導の見直し
⇒駐車場入庫時の誘導見直し及び、誘導員配備時間を15分前倒し（10：00～→9：45～）に変更

①市道線形改良（道路部）
⇒市道の線形改良を実施し、右折レーン滞留スペースの確保による交通の円滑化

【対策効果調査】

（R6.7月：①交差点改良 完了）

- R6.8月24日（土） 10：00～13：00
- R6.8月25日（日） 10：00～13：00

（R6.9～10月：②マークイズ対応 完了）

- R6.11月16日（土） 10：00～13：00
- R6.11月17日（日） 10：00～13：00
- R6.12月14日（土） 10：00～13：00
- R7.3月9日（日） 10：00～12：00

（R7.5月：③信号サイクル変更 完了）

- R7.5月3日（土） 9：30～17：00
- R7.5月10日（土） 9：30～17：00
- R7.5月11日（日） 13：00～14：00

【調査】

- 交通状況の目視調査

信号サイクルの見直し（静岡県警⇔道路部）
⇒信号現示の調整を検討したが、国道への影響が大きく実現不可



渋滞対策実施状況



渋滞対策実施状況

① 市道線形改良（静岡市道路部実施）

- 市道長沼22号線の線形改良（右折レーンの延伸）を実施
- 右折レーンの滞留スペースの確保及び、直進左折の円滑化を図る

対策前



対策後



滞留スペースの延長により
右折滞留車両2～3台増加

渋滞対策実施状況

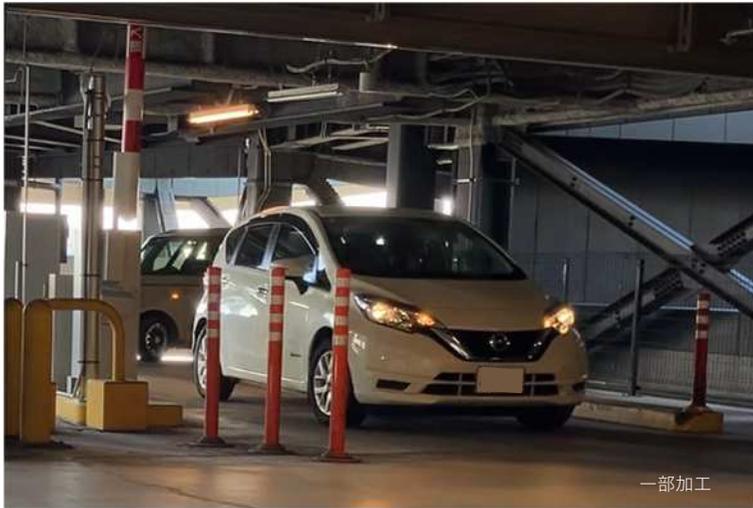


渋滞対策実施状況

②マークイズ静岡駐車対策（マークイズ静岡実施）

- マークイズ静岡駐車場入庫時のチケットレス化を開始。駐車の手間を削減を図る
- マークイズ静岡オープン15分前の誘導開始及び、入口②（奥）への優先誘導を実施し、入庫待ちによる先詰まりの解消を図る

■ チケットレス化



【車両1台がゲート通過に要する時間※】

○対策前： 10秒程度



○対策後： 1～2秒

※車両がゲートに到着し通過するまでの時間を静岡市職員にて計測
対策前：R6.8.25（日）確認 対策後：R6.12.14（土）確認

■ 誘導方法の徹底



入庫待ちによる先詰まりの解消対策実施

誘導時間の15分前倒しによりオープン前混雑の緩和

渋滞対策実施状況

③信号サイクルの見直し（静岡県警実施）

○渋滞発生箇所における信号サイクルの調整について、検討を実施（静岡県警）

■信号（西側）

東進右折（マークイズへの入庫待ち）
の渋滞に対する対応

【対応結果】

信号現示の調整を検討し、右折時間について3秒増（5/8～実施）



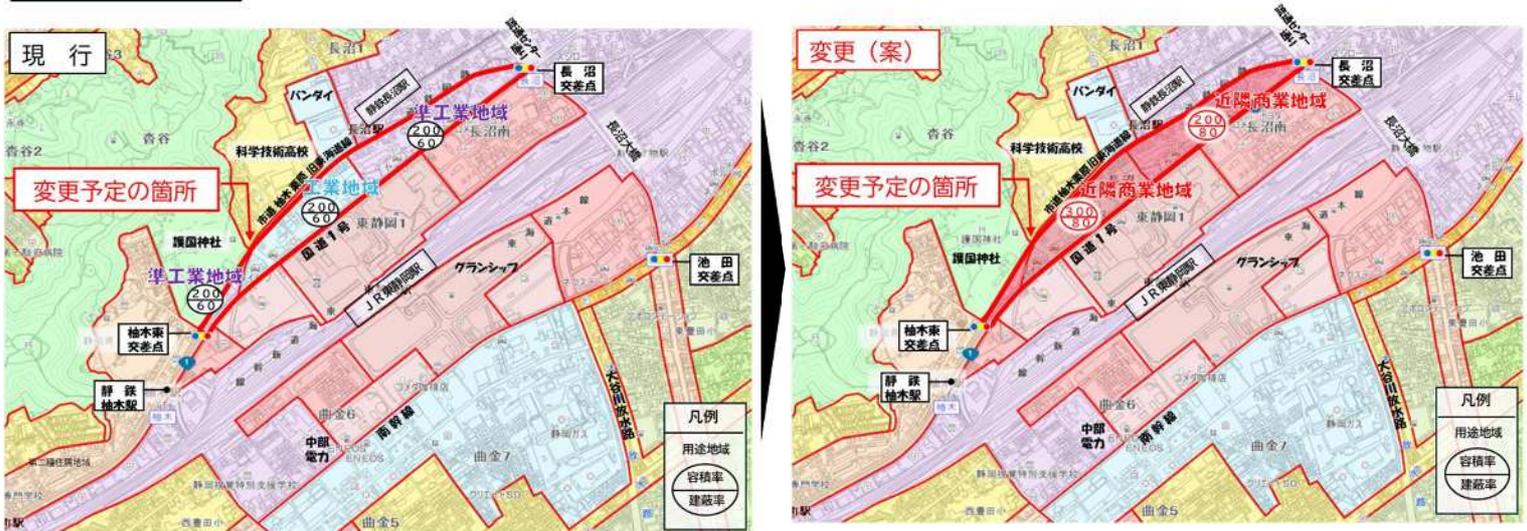
用途地域等の変更に向けた取組状況（長沼・柚木地区）

1 要旨

JR東静岡駅北口周辺は、まちづくり基本構想（骨子）の「目指す将来像」に掲げる“人が集まる魅力的なまちづくり”に向けて、地区内の一部の土地利用をより自由かつ高度利用が可能となるよう、用途地域を工業系から商業系に見直すことを検討しています。

このことから、現在、長沼・柚木地区内（見直し案：変更予定の箇所）で営業している工場事業者等に対して、用途地域の見直し（案）の説明を実施してきました。

2 見直し案



【用途地域内の建築物の用途制限】

変更

現状

	住宅	店舗等	遊戯施設等		ホテル 旅館	学校・病院		工場・倉庫等					
			カラオケ パチンコ	劇場 映画館		幼稚園 小学校 中学校	大学 専門学校 病院	危険性や環境を悪化させる恐れ					
								非常に 少ない	少ない	やや多い	多い	自動車 修理工場	
近隣商業地域	○	○	○	○	○	○	○	▲ 150㎡以下	▲ 150㎡以下	×	×	▲ 300㎡以下	
準工業地域	○	○ 10,000㎡以下	○	○	○	○	○	○	○	○	○	×	○
工業地域	○	○ 10,000㎡以下	○ 10,000㎡以下	×	×	×	×	○	○	○	○	○	○

○：建てられる ×：建てられない ▲：面積等の制限あり

3 説明の実施状況

現在、長沼・柚木地区内で営業している工場事業者等に対して、用途地域の見直し（案）の説明を実施してきました。

アリーナについては整備を期待する声が多かった一方で、アリーナの整備やペDESTリアンデッキのルートが確実とならない現段階での用途地域の見直しは、否定的な意見がありました。

また、用途地域の見直しにより、工場の操業に影響が生じる可能性があることから、今後も継続して操業が続けられるかを心配するなどの意見がありました。

東静岡地区まちづくり基本構想（案）
5/22時点版

2025年●月
静岡市

目次

1. はじめに	1
2. まちづくりの状況	4
3. めざす将来像	10
4. まちづくりの5つの方針	14
5. まちづくりの主要プロジェクト	19
6. 役割分担と今後の進め方	27



1. はじめに

(1) 東静岡地区まちづくり基本構想の目的

●未来につながる持続可能で住みやすいまちづくりを、社会全体の力による「共創」によって推進する

人口減少や地球温暖化といった時代の大きな変化を捉え、20年、30年、その先の未来も視野に入れた、**持続可能で住みやすいまちづくり**を、**社会全体の力による「共創」**によって進めていきます。

新たな**東静岡のまちづくり**は、**鉄道軸で結ばれた静岡駅・清水駅周辺等のまちづくり**とあいまって、まちの魅力を高め、人が集まり交流・滞在を創出するとともに、最先端の文化・スポーツ・エンタメを提供するなど、**静岡市に新たな価値を生み出します**。

●アリーナや新県立中央図書館の整備等の機会を活かした、東静岡地区の新たなまちづくり

東静岡地区は、JRと静岡鉄道が近接している場所であり、本市の南北・東西、葵・駿河・清水の3区の連携という点でも**重要な地理的位置**にあります。

東静岡駅周辺では、**アリーナや新県立中央図書館**の整備が予定され、北口は「**スポーツ・エンタメ**」、南口は「**文化・教育**」として新しい文化・スポーツ等の中心となる、**まちづくりの絶好の時機**を迎えています。

北口の**アリーナ**、南口の**新県立中央図書館**や既存施設の**グランシップ**などの**施設**（ハード）と、そこで提供される**サービス**（ソフト）が**連携することで、まちに新しい価値**（最先端の文化・スポーツ・エンタメの体験・体感など）をもたらします。

この新しい価値を上手に活用し、東静岡地区に**人が集まる仕組み**を作るとともに、**利便性が高く、安心・安全で住みやすい環境づくり**を進めることが重要です。

これに向けて、**行政と市民・事業者等が共にまちづくりを推進するために「東静岡地区まちづくり基本構想」**を策定しました。



1. はじめに

(2) 基本構想の構成

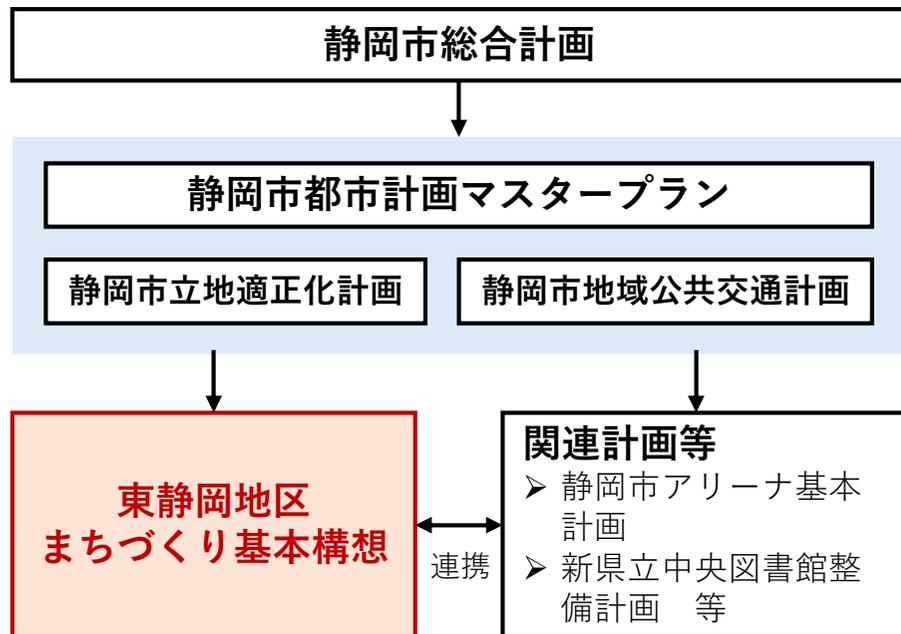
基本構想は、東静岡地区の概ね20～30年後のめざす将来像や、その実現に向けたまちづくりの方針、まちづくりの主要プロジェクト、役割分担・今後の進め方等を示すものです。



(3) 基本構想の位置づけ

基本構想は、静岡市総合計画や静岡市都市計画マスタープラン、静岡市立地適正化計画等におけるまちづくりの方針を踏まえるとともに、静岡市アリーナ基本計画や新県立中央図書館整備計画等と連携し策定しました。

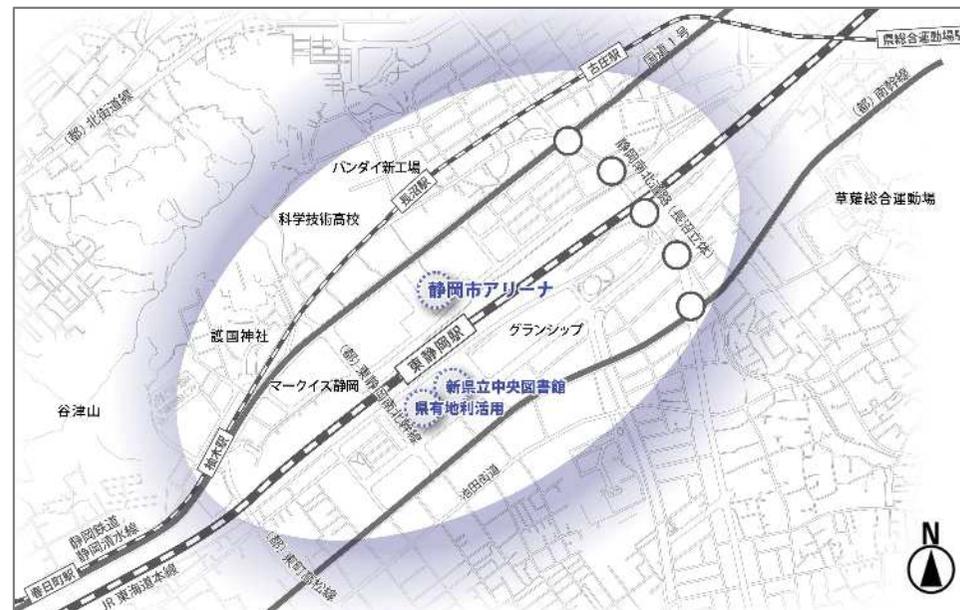
■基本構想の位置づけ



(4) 基本構想の対象範囲

基本構想では、都市計画マスタープランにおける都市拠点の範囲や立地適正化計画における都市機能誘導区域を踏まえ、東静岡駅を中心とした下図に示す範囲を中心とした、広がりのあるエリアを対象とします。

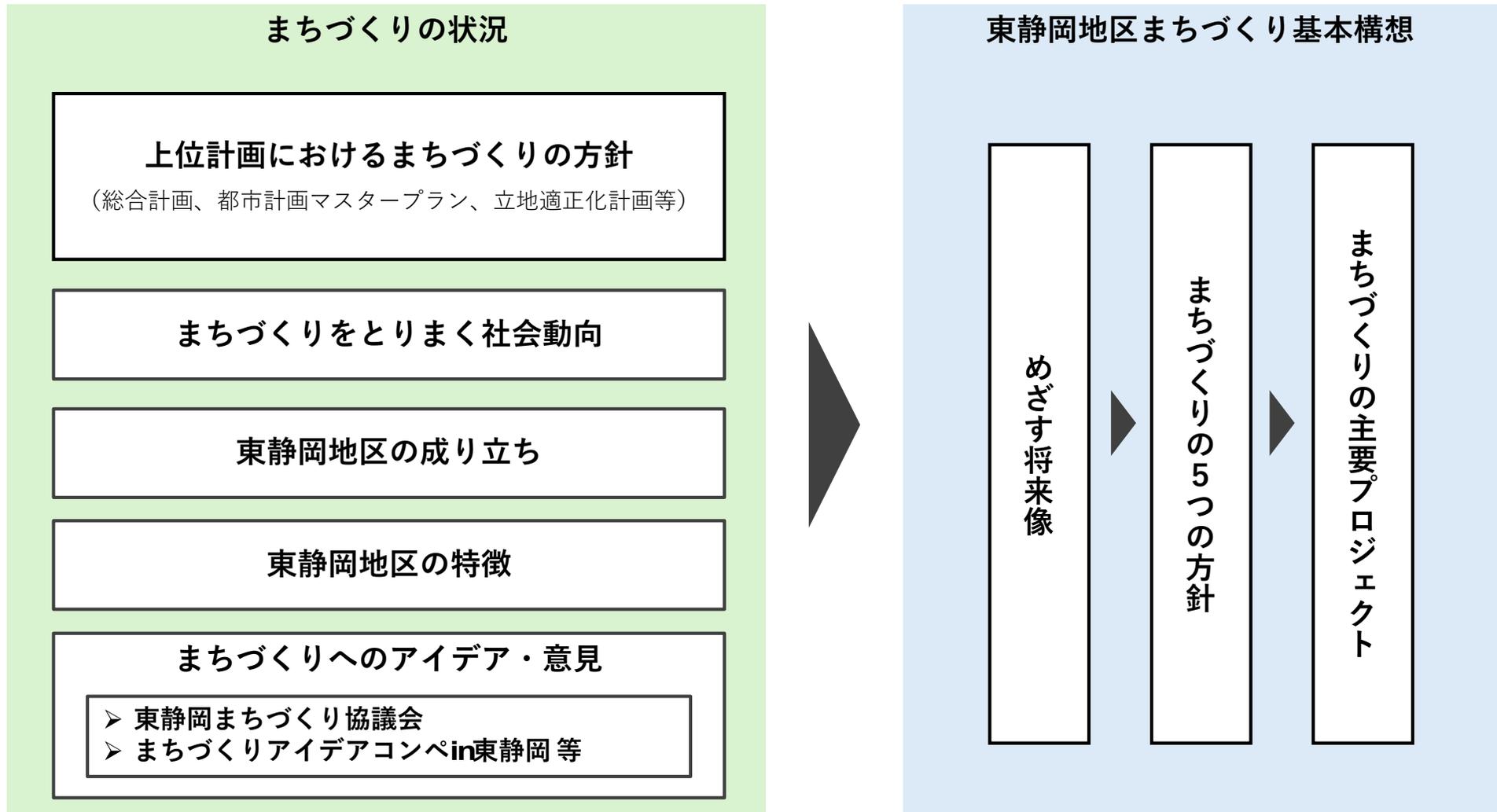
■対象範囲の中心となるエリア



1. はじめに

(5) 基本構想の策定の流れ

基本構想におけるめざす将来像やまちづくりの方針等は、上位計画におけるまちづくりの方針や地区の特徴、まちづくり協議会・まちづくりアイデアコンペ等でいただいたアイデア・意見等を踏まえ設定しました。



2. まちづくりの状況

(1) 上位計画におけるまちづくりの方針

上位計画より、市全域から見る東静岡地区の位置付けを以下に整理しました。

<第4次静岡市総合計画>

- 東静岡地区は「草薙・東静岡副都心」に位置づけられ、スポーツや文化芸術の集積を活かし、それぞれの地域において賑わいの創出に取り組むこととしています。
- また、商業、業務、医療等の都市機能を持ち、コンパクトシティの核としての役割を果たすとともに、地域と一体となったまちづくりを進め、公民共創で新たな価値を創造し都市の魅力向上することが求められています。

<静岡市立地適正化計画>

- 東静岡地区は「都市機能誘導区域」に位置づけられ、拠点形成の方向性として「教育・文化・スポーツ、国際交流、情報発信等の機能強化」や「商業・業務機能の強化」「子育て環境等、周辺居住者の生活利便性の充実」を掲げています。

【誘導施設】

- 子育て支援施設
- 大学
- 専修学校
- 大規模ホール
- 図書館

【立地想定施設】

- 買回り品大型専門店
- 最寄品総合スーパー
- 都市型産業施設
- 宿泊施設

<静岡市都市計画マスタープラン>

- 東静岡地区は「都市拠点」に位置づけられ、定住人口の誘導、文化・スポーツ、国際交流、情報発信等の都市機能の集積を図り、静岡・清水駅周辺とは異なる魅力と賑わいのある都市空間の形成と、交流人口の増加を図ることとしています。
- また、集約型都市構造の実現に向けた重点地区「東静岡副都心地区」に位置づけられ、まちづくりの方針として「快適で住みやすいまちづくりの推進」や「安心・安全のまちづくりの推進」「利便性の高い新たなにぎわい拠点の形成」を掲げています。



2. まちづくりの状況

(2) まちづくりをとりまく社会動向

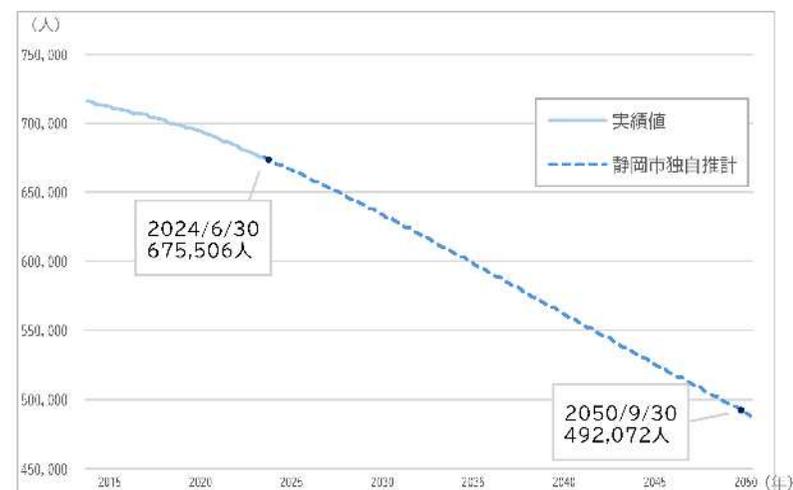
基本構想におけるめざす将来像やまちづくりの方針を設定するうえで、**考慮すべき社会動向**等を以下に整理しました。

キーワード	社会動向
文化・スポーツ	● エンタメやスポーツビジネス市場の拡大 等
若者・子ども	● 少子高齢化と人口減少社会の進行 等
モビリティ	● 既存のモビリティの進化や新たなモビリティの創出など移動手段の多様化 ● DX（デジタル・トランスフォーメーション）の進展 等
生活の質	● 人生100年時代の到来とQOL（生活の質）の重視 ● 社会的包摂と多様性の尊重 等
持続可能性	● 気候変動対策や生物多様性確保等に向けた持続可能なまちづくりへの期待 ● 安全・安心の確保に対する意識の向上 等

静岡市の人口の動向と将来見通し

- 静岡市の人口は、1990年をピークに減少に転じ、2020年には70万人を下回り、**20政令指定都市中最下位**となっています。この**原因には、出生数の減少及び人口流出の増加**があり、静岡市にとって深刻な課題となっています。
- 推計結果によると、静岡市の人口は、現状のまま対策をとらなければ、2050年には約49万人となり、**2024年と比べて27.2%の減少**が見込まれます。また、少子高齢化が進行し、**2050年には老年人口（65歳以上）1人あたり生産年齢人口（15～64歳）が1.3人**になると予測されます。静岡市としては、「決してこのような将来を迎えてはならない」と強い危機感を持ち、抜本的な人口減少対策の実施が求められています。

(参考) 静岡市の将来推計人口（総人口）



2. まちづくりの状況

(3) 東静岡地区の成り立ち

東静岡地区は、東海道に沿って形成され、近代以降に、静岡鉄道の整備や、プラモデルなどものづくり産業の集積などにより、住工混在で都市化が進んだ地区です。

1990年代以降に進められた東静岡駅周辺土地区画整理事業やJR東静岡駅の設置により、グランシップやマークイズ静岡などの大規模施設が開業して、地区の様相は大きく変貌を遂げました。

今後も地区内にはアリーナ、新県立中央図書館といった新たな文化・スポーツ等の都市機能の導入が計画されています。



2025年

東静岡地区まちづくり基本構想の策定
アリーナ基本計画の策定
バンダイ新工場の完成

2026年

東静岡地区まちづくり基本計画の策定予定

2029年頃

新県立中央図書館完成予定

2030年頃

アリーナ完成予定

1889年
静岡市が誕生

1908年
静岡鉄道の前身である鉄道会社が設立
長沼駅、古庄駅、曲金駅（現：柚木駅）が開業

1940年
静岡護国神社が北番町に創設その後現在地（柚木）に移転

1953年
・タミヤ商事合資会社（小鹿）が木製模型専門メーカーとなる
・静岡鉄道長沼駅構内に車両基地が完成

1967年
日本国有鉄道の貨物駅として東静岡駅が開業

1993年
東静岡駅周辺土地区画整理事業認可
東静岡駅が静岡貨物駅に改称、1 km東に移転

1998年
旅客駅であるJR東静岡駅開設

1999年
静岡県コンベンションアーツセンター（グランシップ）完成



出典：静岡県

2003年
静岡市と清水市が合併

2006年
バンダイホビーセンターが旧静岡工場から現在地へ移転



出典：(株)バンダイHP

2013年
マークイズ静岡開業



出典：(株)三菱地所HP

2015年
“ふじのくに”の「文化力」を活かした地域づくり基本構想策定

2017年
東静岡駅周辺土地区画整理事業完了
（工業・準工業地域⇒商業・近隣商業地域）

2017年
アート&スポーツ広場完成



出典：(株)VELTEXスポーツエンタープライズHP

2021年
駿河まなびのまちづくりランドデザイン策定

2024年
まちづくりアイデアコンペ in 東静岡



2. まちづくりの状況

(4) 東静岡地区の特徴

●東静岡地区の周辺の広域環境

東静岡地区の周辺は巴川流域の平野が広がり、日本平、谷津山などの豊かな自然に囲まれています。

また静岡大学、静岡県立大学、常葉大学などの**大学**、静岡県立美術館、ツインメッセ静岡、日本平動物園などの**観光・文化施設**、草薙総合運動場などの**スポーツ施設が多数立地**しています。

その中でも東静岡駅の周辺には、グランシップのほか、**アリーナ**や**新県立中央図書館**が計画されており、文化・スポーツの拠点として、今後さらなる発展が期待されています。

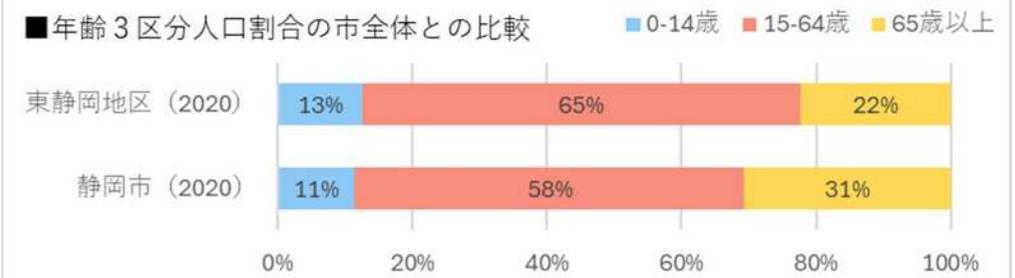
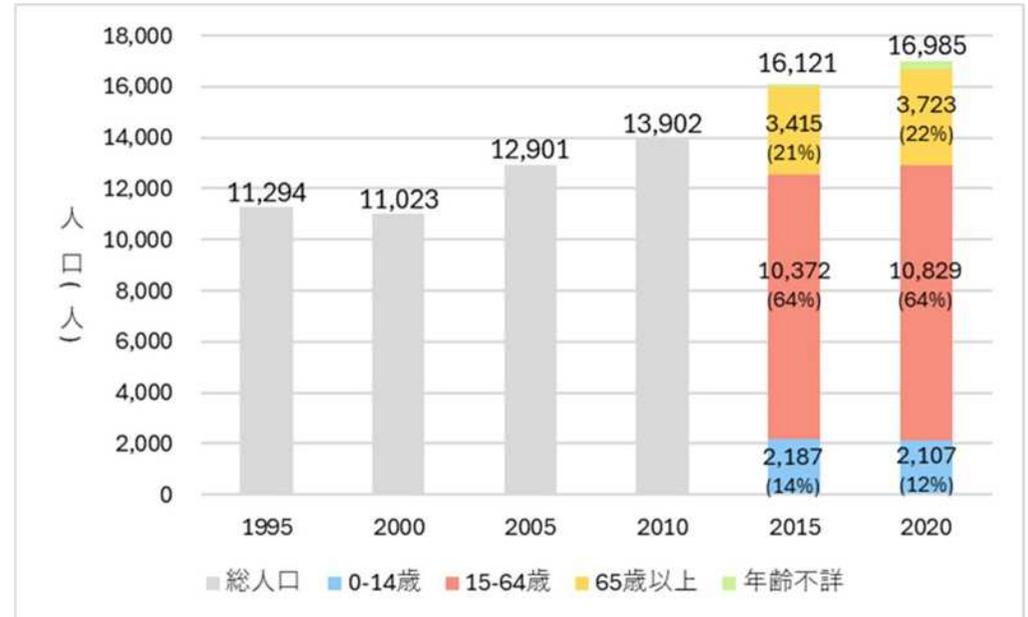
<東静岡地区の周辺の資源分布>



●東静岡地区の人口動向

東静岡地区の**人口**は、市全体では減少している一方で、2000年以降**増加傾向**にあります。また、市全体より年少人口（0-14歳）と生産年齢人口（15-64歳）の割合が大きく、**ファミリー層や若年層の流入**がみられ、その特徴をさらに伸ばすための取組が必要です。

<東静岡地区の人口推移と年齢3区分人口割合> 出典：国勢調査



2. まちづくりの状況

(5) まちづくりへのアイデア・意見

■東静岡地区まちづくり協議会

<実施概要>

●目的

東静岡地区における新たなまちづくりを検討するにあたり、関係団体等から広く意見を聴くことを目的に、東静岡地区まちづくり協議会を設置し、これまで4回の会議を実施しました。

●開催日時・議事

回数	日時	議事等
第1回	2024年 7月11日	<ul style="list-style-type: none"> 東静岡地区のまちづくりの考え方について コンペについて
第2回	2024年 11月22日	<ul style="list-style-type: none"> コンペの提案状況について 静岡市アリーナ基本計画(案)について 東静岡地区まちづくり基本構想の概要について 用途地域等の変更(案)について
第3回	2025年 1月30日	<ul style="list-style-type: none"> コンペの結果報告について 静岡市アリーナ基本計画について 東静岡地区まちづくり基本構想(骨子)について
第4回	2025年 5月22日	<ul style="list-style-type: none"> アリーナの整備に向けた取組状況 交通渋滞対策の取組状況 用途地域等の変更に向けた取組状況 新県立中央図書館の整備に向けた取組状況 東静岡地区まちづくり基本構想(案)について

<協議会での主な意見>

キーワード	主な意見
文化・スポーツ	<ul style="list-style-type: none"> 地域住民にとってアリーナが必要と思ってもらえるような取組が重要
若者・子ども	<ul style="list-style-type: none"> 「若者が住み続ける」だけでなく、「若者が東静岡に訪れたいくなる」ための取組も重要 大学生や高校生の視点も積極的に取り入れるべき 若者や子育て世代など、多様な視点での意見を把握し反映していくことが重要
モビリティ	<ul style="list-style-type: none"> 歩行者の歩きやすさも重要だが、自転車のネットワーク形成や駐輪場確保も重要 公共交通の利用促進に向けた取組が重要 鉄道を挟む南北の回遊性の向上が重要
生活の質	<ul style="list-style-type: none"> パブリックスペースについては、ハードルが低く使える場所をバランスよく取り入れていくことが重要 ペDESTリアンデッキについては、起終点及び途中の既存の施設等とのつなぎ方が重要 東静岡周辺には特別支援学校や外国人のビジネス専門学校があり、障がいを持っている方、外国人も利用しやすい環境づくりが重要 地域の実情を把握し、課題に対する対応を検討すべき
持続可能性	<ul style="list-style-type: none"> 東静岡周辺には谷津山や護国神社があり、これらの資源を活かしていくことが重要

2. まちづくりの状況

■まちづくりアイデアコンペ in 東静岡の実施

<実施概要>

●目的

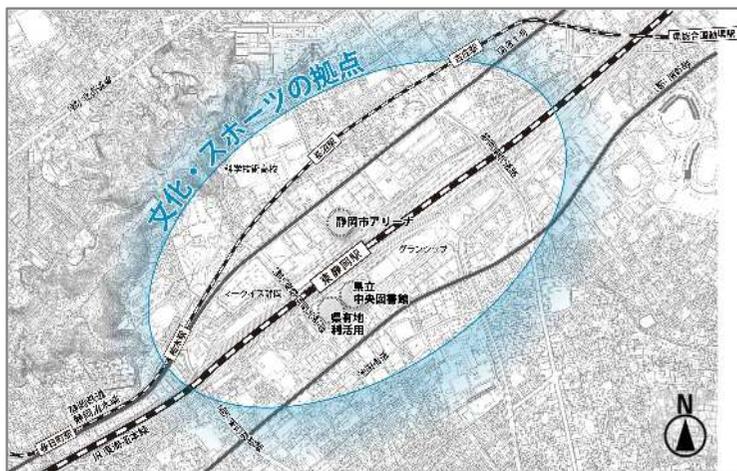
アリーナを核とした「東静岡地区まちづくり基本構想」の作成にあたり、まちづくりに対する幅広い方々の多様なアイデアを提案していただくことを目的としてコンペを実施しました。

●実施期間

2024年7月26日～2024年12月8日

●対象区域

提案の対象区域は、下図の「文化・スポーツの拠点」のエリアを中心としつつ、このエリアに限らず地区との連携によりまち全体への波及効果のある提案も可能としました。



●応募件数

都市デザイン部門 28作品(96名)

まちを楽しむ部門 8作品(11名)

総勢107名からのご提案がありました！

<コンペで得られた主なアイデア>

提案作品	基本構想へ反映した主なアイデア
都市デザイン部門 最優秀賞	<ul style="list-style-type: none">● 「非日常（文化・スポーツの拠点）と日常（住みやすい住環境）」がお互いに寄り添うことが重要であること● 市民の活動の場が点から始まり、点が集積して線となり、面的なまちづくりに波及していくこと
都市デザイン部門 優秀賞	<ul style="list-style-type: none">● 緑・水の創出や保全など「持続可能性」が重要な要素であること
まちを楽しむ部門 審査委員特別賞	<ul style="list-style-type: none">● 子どもたちが夢や可能性を抱ききっかけとなるような空間の創出とその空間をつなげることが重要であること
まちを楽しむ部門 会場人気特別賞	<ul style="list-style-type: none">● 東静岡に学生が集まる居場所を設け、この居場所をきっかけに地域社会との交流が生まれ、静岡市に対する愛着につながっていくこと
その他の提案作品	<ul style="list-style-type: none">● 既存のものづくりや文化・スポーツの資源を活かし、新たな価値・魅力を生み出す空間や場の創出が重要であること● まちに「青春（自分のやりたいことに向かって真剣に取り組む状態）」を受けとめる場があり、その青春をまちの人で育てることが重要であること

3. めざす将来像

<めざす将来像>

「新たな文化・スポーツの拠点づくり」と「快適で住みやすい住環境づくり」

～最先端の文化・スポーツ等による新たな交流・滞在の創出と、

安心して住み続けられる住環境が共存する、非日常と日常が融合した新時代のまちづくり～

- 東静岡駅北口のアリーナ、南口の新県立中央図書館や、既存のグランシップ等の施設（ハード）と、まちで提供・実施されるサービス・活動（ソフト）が連携することで、まちに新しい価値（最先端の文化・スポーツ・エンタメの体験・体感など）をもたらします。
- この新しい価値を上手に活用し、東静岡駅周辺に商業施設・ホテル等を含めた人が集まる魅力的な都市空間を形成するとともに、ペDESTリアンデッキの整備や次世代モビリティの導入等により、誰もが移動しやすい・住みやすいまちづくりを進めていきます。



アリーナ単体ではなく、駅直結のアリーナを核として、観る・学ぶ・憩う・買い物する・食べる・泊まるなどの多様な魅力があふれるまちづくりを進めます。



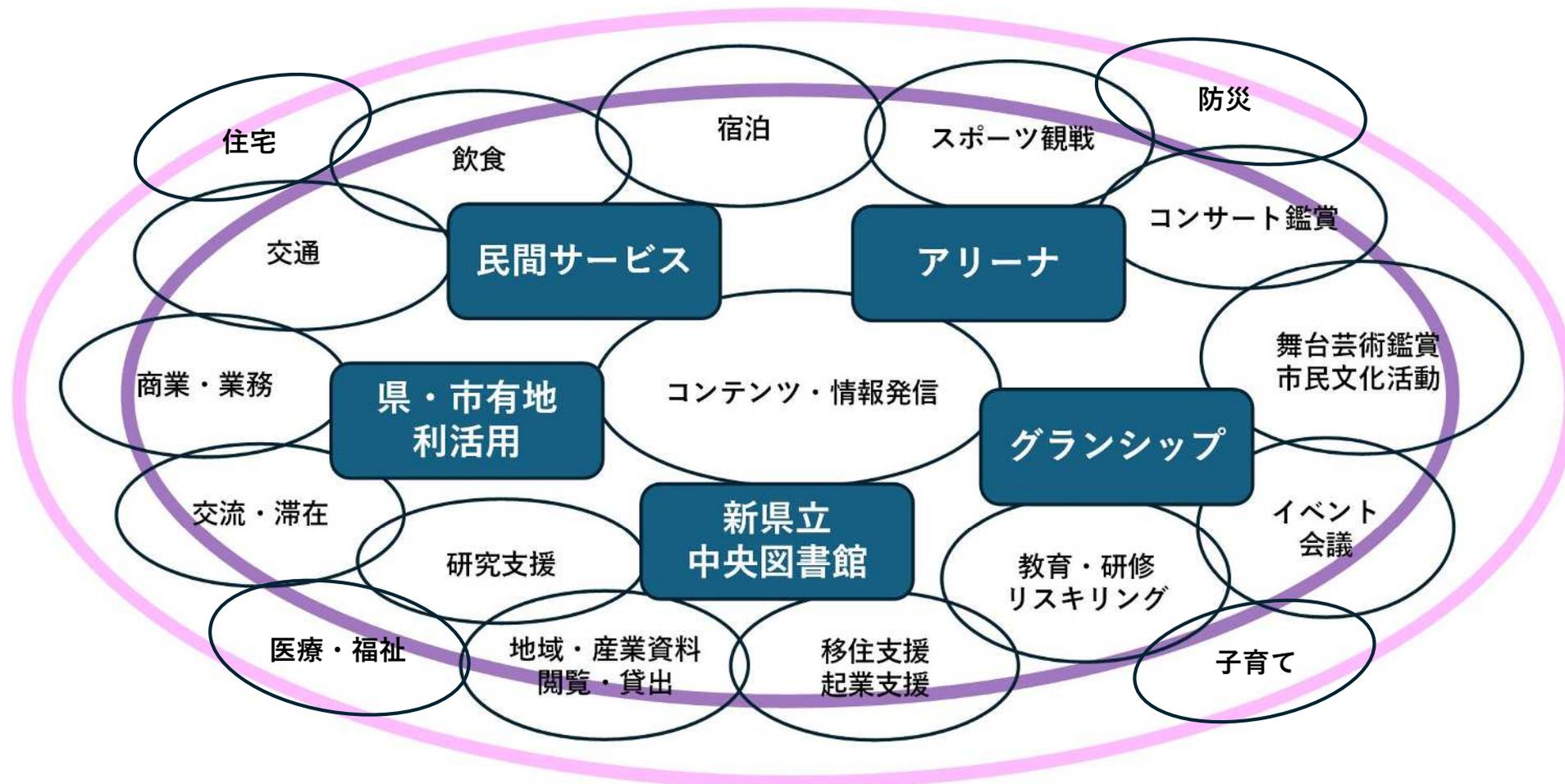
東静岡駅や長沼駅とアリーナをペDESTリアンデッキ等で一体的につなぐことにより、まちに訪れる人々・暮らす人々が安全・快適に歩行・滞在することができます。

3. めざす将来像

< 県市連携を核とした産学官の連携イメージ >

- 県市連携を核とした産学官の連携により、アリーナ・新県立中央図書館・グランシップ等の**公共施設**と、宿泊・飲食・交通等の**民間サービス**の連動性を高め、相互協力によるまちづくりを進めます。
- これにより、**公共施設の多機能拠点化**と、**民間活力の取り込み**を進め、東静岡地区やその周辺エリアにおける**人的集積**、**流動性向上**・**活性化**、**エリア価値向上**を図ります。

公共施設と民間サービスの連動性向上・相互協力によるまちづくり



3. めざす将来像

<東静岡のまちづくりによる相乗効果>

- アリーナを核としたこれからの東静岡のまちづくりは、鉄道軸で結ばれた静岡駅・清水駅周辺等のまちづくりとあいまって、まちの魅力を高め、人が集まり交流・滞在を創出するとともに、最先端の文化・スポーツ・エンタメを提供するなど、静岡市に新たな価値を生み出します。
- 静岡駅周辺や草薙・清水駅周辺等でのそれぞれが異なる個性を持つまちづくりと、鉄道軸等による各地区の連携により、人・モノ・情報の活発な交流を創出し、静岡市全体の魅力や活力の向上につなげていきます。

新たな価値の創造・静岡市全体の魅力や活力の向上



4. まちづくりの5つの方針

① 文化・スポーツの拠点としての、まちの新たな価値づくり

- 東静岡駅北口のアリーナや、南口の新県立中央図書館の整備を活かした、文化・スポーツと触れ合える空間づくり
- 既存のグランシップを含めた各ハード施設の連携と、施設を活用した人が集まる仕組みづくり
- ものづくりや文化・スポーツの資源等の固有の魅力を活かした、選ばれるまちづくり

○文化・スポーツの拠点としての、まちの新たな価値づくりのイメージ

最先端の文化・スポーツ・エンタメの体験・体感



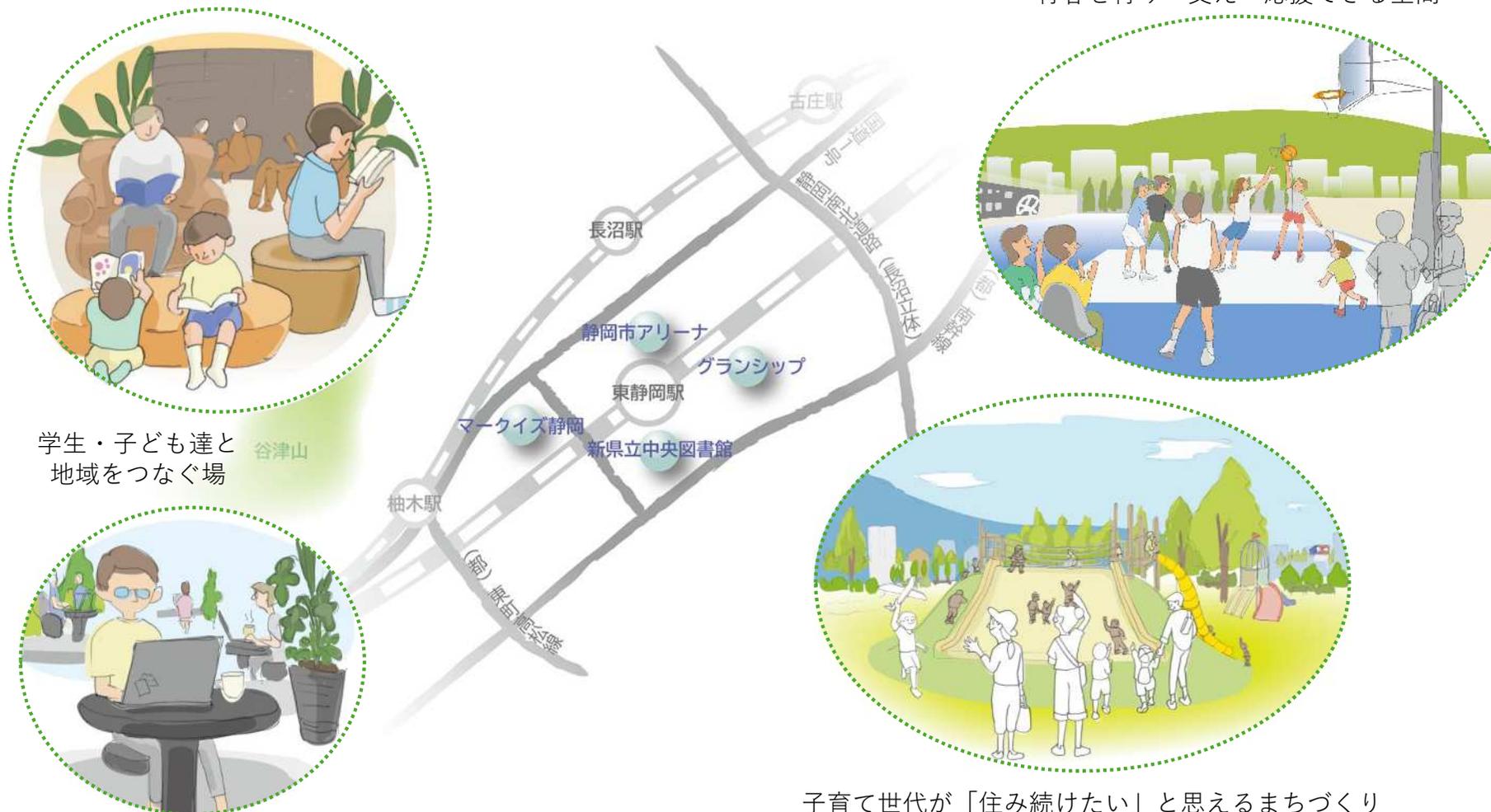
4. まちづくりの5つの方針

② 若者や子どもが、夢や希望を持てるまちづくり

- 若者・子育て世代が「住み続けたい、訪れたい」、進学や就職で一度静岡市を離れても、帰ってきたくなるまちづくり
- 市外・県外の方が「住んでみたい、訪れてみたい」と思えるまちづくり（交流人口の創出）
- まち全体で「青春（自分のやりたいことに向かって真剣に取り組む状態）」を、育み・支え・応援できる空間・仕組みづくり
- 学生や子ども達と地域をつなぐ場での滞在・交流を通じた、地域への関心や愛着の醸成

○若者や子どもが、夢や希望を持てるまちづくりのイメージ

青春を育み・支え・応援できる空間



子育て世代が「住み続けたい」と思えるまちづくり

4. まちづくりの5つの方針

④ 人々の交流や、豊かで心地良い生活を生み出す空間づくり

- 都市計画に定める**地域地区（用途地域や高度地区等）**の見直し（**工業系用途地域の商業系用途地域への変更等**）による**良質な民間投資の誘発**（ホテル・商業施設等の立地や、生活環境の改善）
- **低未利用地を活用した都市開発**による、魅力的な空間づくり
- 多様な人々が思い思いに過ごすことができる、人中心で**居心地が良く歩きたくなる**空間づくり
- 広場や公園、道路、公開空地、調整池など**公共的空間の設えや使い方の改善**
- 公共施設・民間施設のオープンスペースにおける**居場所となる空間づくり**
- 市民の活動の起点となる小さな場の点在による、まち全体への**人の流れの創出**
- 災害時には**安全に避難できる空間や設備の確保**

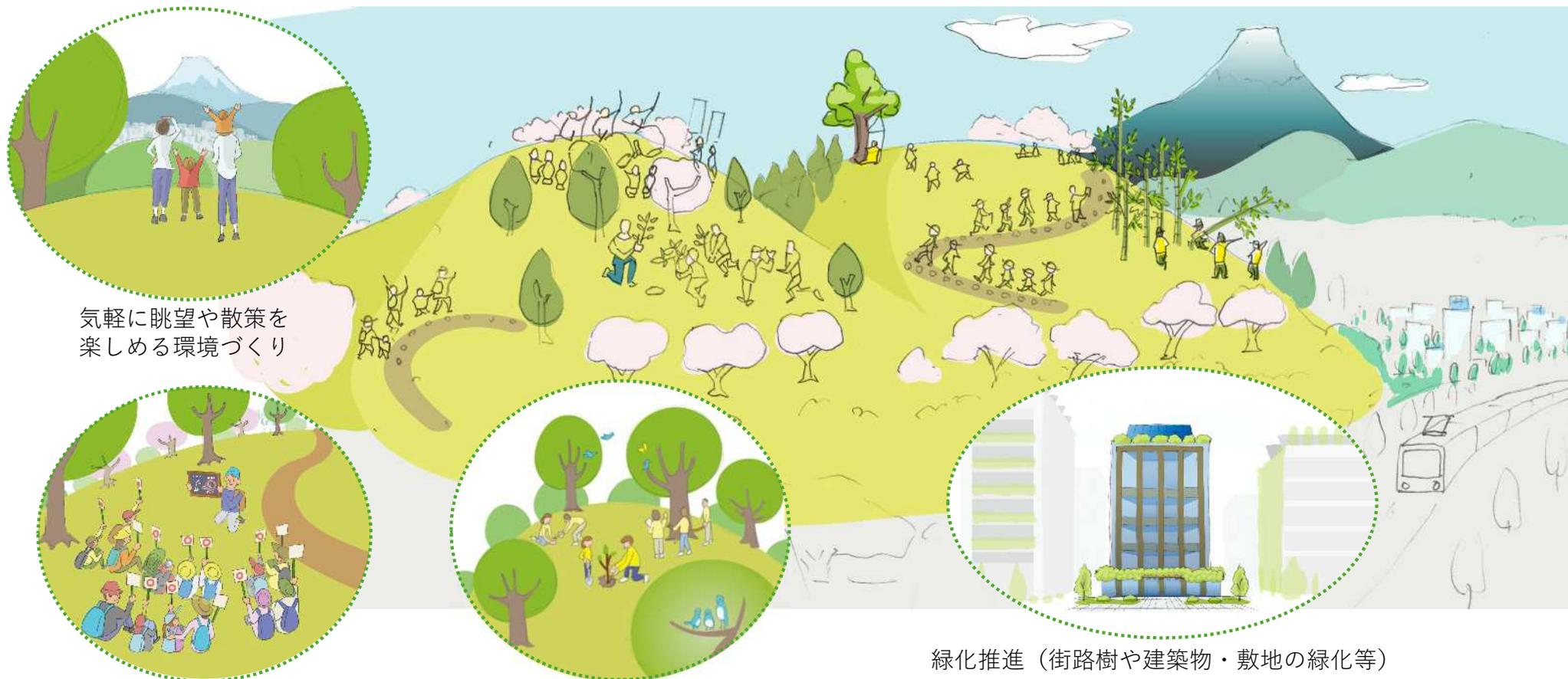


4. まちづくりの5つの方針

⑤ 緑と自然豊かな都市環境づくり

- 健康で快適な生活・気候変動対策・生物多様性の確保等に向けた、**緑地保全**や**緑化推進**
- 市民が身近に自然と親しむ**里山公園**として、**谷津山**などの**自然環境の保全**や**活用の推進**
- 公共建築物や民間施設での敷地内緑化などによる、**良質な都市緑地**の創出
- 環境に配慮した**都市開発事業**の促進（ZEB*、再生可能エネルギーの導入等）

○ 緑と自然豊かな都市環境づくりのイメージ



気軽に眺望や散策を
楽しめる環境づくり

自然を活かした体験や学びの提供

緑地の保全活動

緑化推進（街路樹や建築物・敷地の緑化等）

*ZEB：省エネ、創エネによりエネルギー消費量の収支ゼロを目指す建物

5. まちづくりの主要プロジェクト

④ 静岡市アリーナ 【該当する方針：①、②、④、⑤】

■めざすアリーナ

- 最高峰の**プロスポーツ**の試合や大きな**コンサート**など、これまでの市内の施設（中央体育館、市民文化会館など）では開催できなかった、さまざまな大型イベントを開催できる**多目的アリーナ**（8,000席以上）の実現をめざします。

地域のためのアリーナ

・東静岡の文化・スポーツの拠点になるとともに、地域のまちづくりや防災にも役立っています。

集うアリーナ

・市民、市外や県外から人が集まり、新たな交流や経済効果を生みます。

選ばれるアリーナ

・いろいろな演出ができて、イベント会場として使いやすい、主催者や観客から選ばれるアリーナとします。

観るアリーナ

・バスケットボールやバレーボールなど、最高峰のプロスポーツの試合や、大きなエンタメイベントを実現します。

持続可能なアリーナ

・民間のアイデアを活かした運営やサービスにより、将来にわたり魅力があり、収益を生み出すアリーナとします。



アリーナのイメージ（沖縄アリーナ）



バスケットボール



©toray arrows shizuoka

バレーボール



コンサート



光と音の華やかな演出

5. まちづくりの主要プロジェクト

■防災施設としてのアリーナ

- 大きな災害のときは、広い屋内スペースを活かした支援物資の受入れ、仕分けのほか、**避難所として避難者の受入れを担う防災拠点**となります。
- 非常用電源や水などのライフラインを備えることで、**地域に安心・安全**をもたらします。

アリーナには、大型トラックがそのまま屋内（メインアリーナ）に入れる搬入口やコンクリート製の床、VIPルームなどの個室、セントラルキッチンを設けます。地震や風水害などの災害のときは、これらの設備が**緊急物資集積所**や**避難所**となります。

例えば、乳幼児同伴の方や要配慮者が個室を利用できるようにします。そのほか、市民や避難者への電気（スマホ等の充電）や水の供給、セントラルキッチンなどを活用した飲食の提供ができるようにします。



石川県産業展示館（内閣府HPより）



大型トラックが通れる搬入口
(SAGAアリーナ)



VIPルーム・プレミアムラウンジ（観戦だけでなく飲食も楽しめる個室）
(SAGAアリーナ)



セントラルキッチン
(沖縄アリーナ)

5. まちづくりの主要プロジェクト

⑧ 新県立中央図書館 【該当する方針：①、②、④、⑤】

■県民が出会い交わり、新しい文化を育む図書館

- ・従来の図書館サービスを拡充するとともに、新たに「図書館の枠を超えた学び・交流し・創造する場」の整備が、静岡県により計画されています。

- ① 多彩な情報と出会いの場（映像・実物・デジタルなど様々なメディアで情報提供など）
- ② 人と人との出会いの場（出会い・交流する居心地のよいサードプレイス）
- ③ 新たな文化の創造・発信の場（県民交流・文化創造を手助けする設備・機能の設置）



※出典：静岡県HP

5. まちづくりの主要プロジェクト

③ ペDESTリアンデッキ 【該当する方針：③、④】

■ まちをつなぐペDESTリアンデッキ

- 東静岡駅、長沼駅とアリーナをつなぎ、歩行者と自動車の動線を分けることで、来場者や住民が**安全・快適に通行・滞在**できるよう、**ペDESTリアンデッキ**（高架の歩行者空間）を整備します。

東静岡駅や長沼駅とアリーナをつなぐペDESTリアンデッキ



SAGAアリーナ

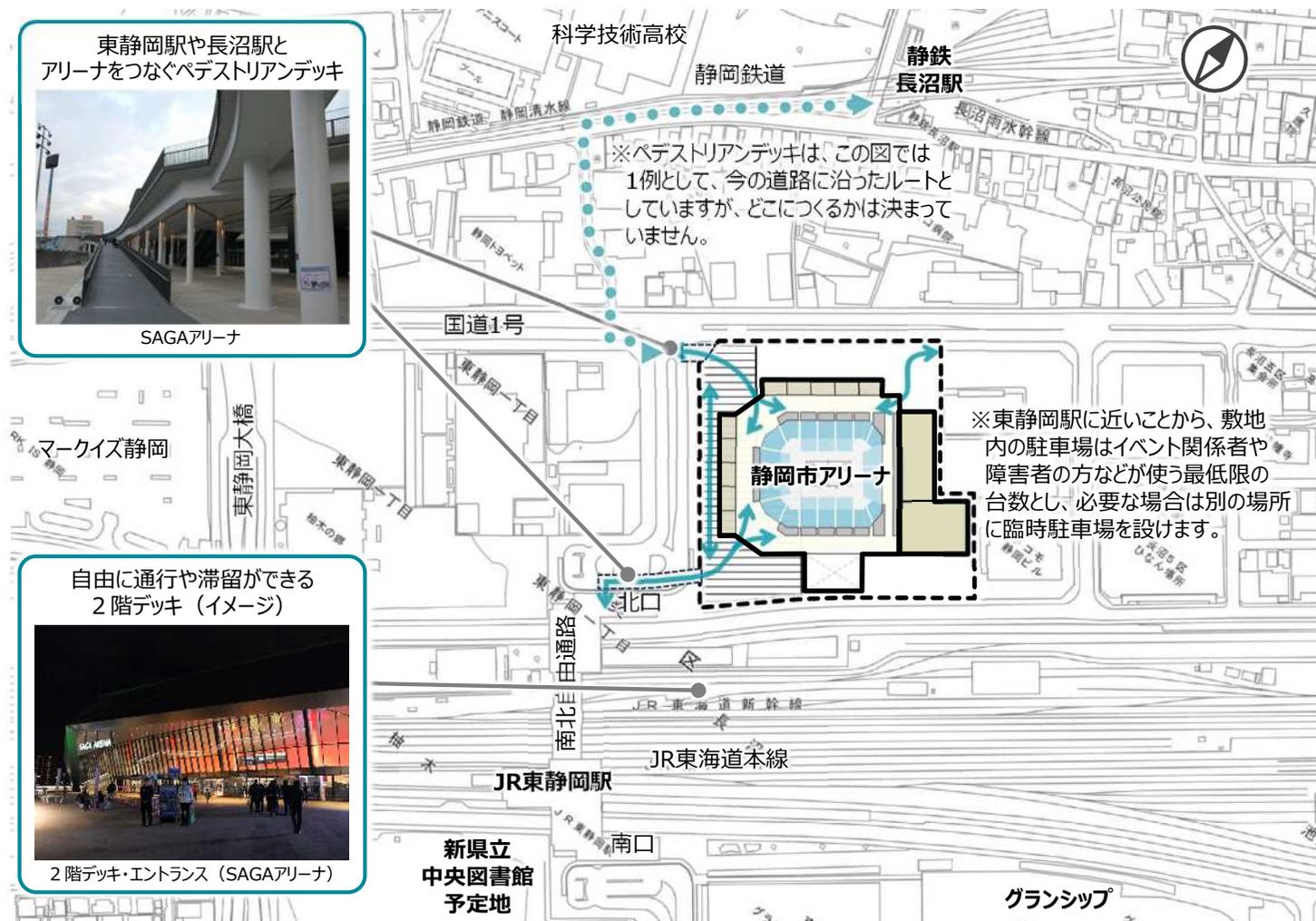
■ ペDESTリアンデッキのルートのご決定

- 東静岡地区のまちづくりの目指す姿「新たな文化・スポーツの拠点づくり」と「快適で住みやすい住環境づくり」を踏まえ、**事業費や交通利便性**のほか、**交流・滞在の創出や住環境との共存**などの観点から、最適なルートを選定します。

自由に通行や滞留ができる2階デッキ（イメージ）



2階デッキ・エントランス（SAGAアリーナ）



5. まちづくりの主要プロジェクト

④ 新たな交通システムの導入【該当する方針：③】

■ AI オンデマンド交通

- ・ 来訪者の地区内外の回遊を促すとともに、地区住民の買い物や通院など日常生活の利便性向上を図るため、AI（人工知能）を活用した、移動のニーズに合わせて運行する乗り合いの交通手段の導入をめざします。
- ・ 上記に加え、今後の技術革新による次世代モビリティの導入を積極的に検討し、誰もが移動しやすいまちづくりをめざします。

○ 導入するAI オンデマンド交通のイメージ

AI オンデマンド交通とは、AIを活用した効率的な配車により、利用者予約に対して、運行車両の最適配置やルート最適化、乗り合いの最適な組み合わせ等を行うシステムです。運行モデルは、路線バスとは異なり、対象エリア内にて運行方法や運行ダイヤ、発着地の停留所をニーズに合わせて設定するなど、地域の特性に応じた柔軟な運行をめざします。



AIオンデマンド交通の運行イメージ ※出典：国土交通省

5. まちづくりの主要プロジェクト

⑤ 都市計画の見直し 【該当する方針：①、②、④】

■用途地域等の変更

- 東静岡地区の新しいまちづくりにあたり、地区内の土地のより自由かつ高度な利用を可能とし、商業施設やホテル等が立地しやすくなるよう、国道1号沿線、南幹線沿線等の用途地域を工業系から商業系に変更するなど、都市計画の見直しを検討します。
- ペDESTリアンデッキ等のインフラの整備・改良に合わせて、その周辺の土地利用転換の促進を図ります。

○用途地域等の変更のイメージ



工業地域



準工業地域



商業系用途地域

※出典：千葉市HP資料（一部加工）

5. まちづくりの主要プロジェクト

⑥ 里山公園（谷津山）の利活用 【該当する方針：⑤】

■身近な自然環境の保全と活用

- 谷津山を「緑と自然豊かな都市環境づくり」に寄与する貴重な資産として捉え、市民が身近な自然に親しみ、楽しむことができるよう、自然環境の保全と活用を、社会全体の力による「共創」により進めていきます。

- ① 谷津山の保全活用に向けた市民活動の発展・拡大の下支え（放任竹林対策や環境学習に取り組む活動の支援）
- ② 様々な主体との連携により保全活用に取り組む体制の構築（保全活用に向けた意見交換・情報共有ができる場の創出）
- ③ 利用環境の改善に向けた環境整備の実施（眺望場所や散策路などの整備、放任竹林の伐採）



身近な自然環境を活かしたハイキングイベント



市民団体による放任竹林対策活動

5. まちづくりの主要プロジェクト

○ 低未利用地を活用した新たな都市開発 【今後、具体化を図るプロジェクト】

■ 新たなまちづくりに寄与する都市開発

- 地区内に点在する**県有地・市有地等の低未利用地**を活用し、**県市連携**による魅力的な都市空間の実現に向けた**都市開発**を進めます。
- 都市開発は、「まちづくりの5つの方針」を踏まえ、東静岡地区の**新たなまちづくりに寄与**するものに取り組んでいきます。



※出典：LIFE Streaming



※出典：東静岡「緑と水が織りなす新しい東海道」子育て世代が集う、持続可能な理想街



※出典：ヒガシズ 際立つ！



※出典：まちまるごとアリーナ



※出典：「かいゆう」のまち



※出典：WEAVING NETWORK

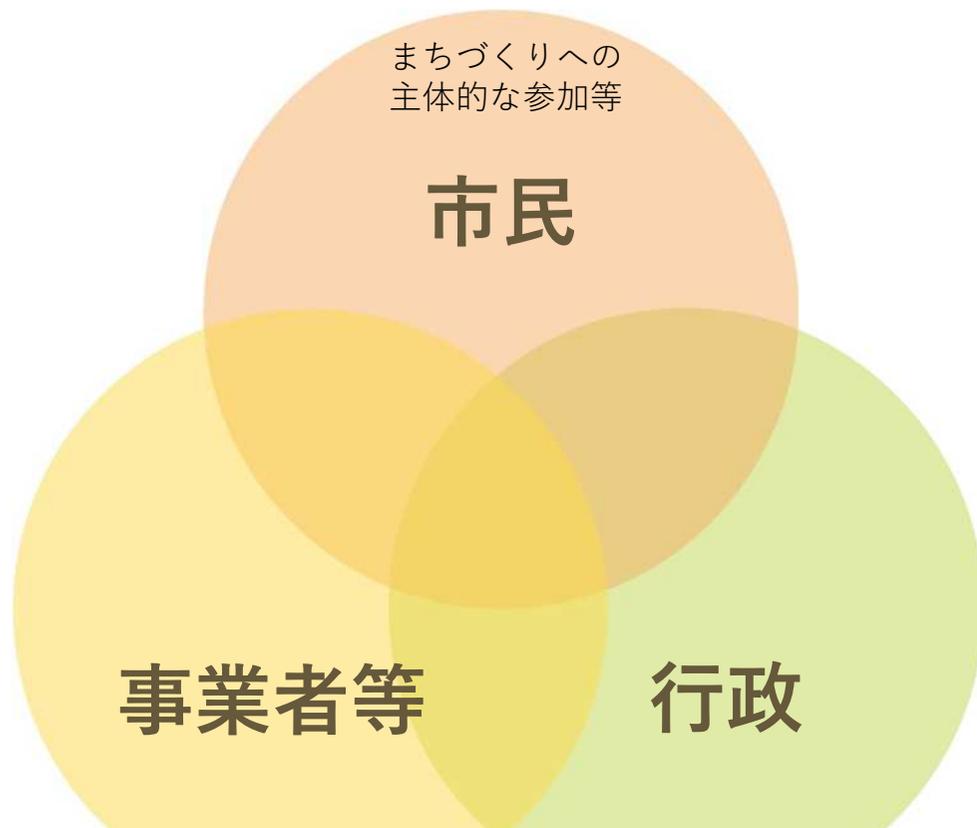
コンペで提案された魅力的な都市開発のイメージ

6. 役割分担と今後の進め方

(1) 社会全体の力による「共創」のまちづくり

まちづくりを進めていくためには、市民や事業者等の様々な主体と行政がお互いに役割を明確にしつつ、連携してまちづくりを進めていくことが必要です。

■社会全体の力による「共創」のまちづくりのイメージ



民間の資金やノウハウを活用したまちづくりへの参加
事業活動を通じた地域貢献
まちづくりと連携した研究活動等

都市計画制度の適切な運用
まちづくり情報の提供
都市基盤の整備・改善
市民・事業者活動の支援等

■協議会での議論や地元自治会との連携

- 市民や事業者等、行政による公民共創を推進する体制として協議会を継続的に実施していきます。
- 地域住民には、まちづくりにおける各段階において、説明会等により丁寧な説明・意見交換を実施していきます。

コンペ受賞者が考えるこれからのまちづくり

(まちを楽しむ部門 審査委員特別賞受賞者へのヒアリングより)

- まちづくりにおいては、単に新たにできた空間を地域住民に利用してもらうだけでなく、場づくりの段階から住民が参加することで交流が生まれ、それが地域への愛着や地域コミュニティの強化につながっていくと考えています。
- 東静岡駅周辺では、これからアリーナや図書館の整備が進む過程で住民が関われる機会（例：敷地の一角に花壇をつくるなど）をつくることで、新しい場や施設に対する住民の愛着が生まれ、地域と一体となってまちを盛り上げることができると考えています。

コンペで提案された多世代の交流が生まれるコミュニティガーデンのイメージ



6. 役割分担と今後の進め方

(2) 主な役割と今後の進め方

まちづくりは一朝一夕で実現するものではありません。段階的なステップを踏み、小さくても着実に取組を進めていくことで、地区に良い変化を生みながら将来像の実現へと近づくことができます。

短期・中期・長期の3つのステップにおける、まちの状況（例）や、行政と市民・事業者等の取組（予定）を整理しました。

	短期（2024～2026）	中期（2027～2029）	長期（2030～）
まちの状況 （例）	<ul style="list-style-type: none"> ● アリーナの整備に向けた取組が本格的に動き出す ● 新県立中央図書館の整備が進む ● バンダイ新工場が完成し、多くのファンが訪れる 	<ul style="list-style-type: none"> ● 新県立中央図書館の完成・運営 ● アリーナ・ペDESTリアンデッキの整備が進む ● 地域内外の回遊を促すモビリティの実装 	<ul style="list-style-type: none"> ● アリーナ・ペDESTリアンデッキの完成・運営 ● 都市計画の見直しが行われ、アリーナや新県立中央図書館等と一体となった魅力ある都市空間が形成 ● 次世代モビリティが導入され、誰もが移動しやすく、住みやすいまちになる
行政の取組 （市）	<ul style="list-style-type: none"> ✓ 具体的な事業等を示す「まちづくり基本計画」の策定 ✓ アリーナ・ペDESTリアンデッキの整備に向けた設計の実施 ✓ 地域内外の回遊を促すモビリティの検討・実証実験 ✓ 都市計画の見直しに向けた地域との調整 ✓ 里山公園（谷津山）の保全活用の将来計画の作成 	<ul style="list-style-type: none"> ✓ アリーナ・ペDESTリアンデッキの工事の実施 ✓ 地域内外の回遊を促すモビリティの実証実験・実装 ✓ 都市計画の見直しに向けた手続 ✓ 里山公園（谷津山）の保全活用の取組実施 	<ul style="list-style-type: none"> ✓ アリーナ・ペDESTリアンデッキ等の適切な管理・利活用 ✓ 次世代モビリティの導入による誰もが移動しやすい環境整備 ✓ 都市計画の見直し ✓ 里山公園（谷津山）の保全活用の取組拡大
市民・事業者 等の取組	<ul style="list-style-type: none"> ✓ 地域住民・関係者のまちづくりへの参画 ✓ 地域住民・関係者が主体となった小さな取組の実施 	<ul style="list-style-type: none"> ✓ 地域住民・関係者のまちづくりへの参画 ✓ アリーナの開業を見据えた土地利用の検討・推進 	<ul style="list-style-type: none"> ✓ 地域住民・関係者が主体となったまちづくりの拡大 ✓ 民間投資の推進（土地の高度利用、環境に配慮した建物の建設等）





静岡市



(1) 東静岡地区まちづくり基本構想(案) 骨子からの追加・変更について

基本構想(骨子)	基本構想(案) 赤字: 骨子から追加した部分	備考
0. はじめに <ul style="list-style-type: none"> ● 基本構想(骨子)の目的 ● 基本構想(骨子)の構成 	1. はじめに <ul style="list-style-type: none"> (1) 基本構想の目的 (2) 基本構想の構成 (3) 基本構想の位置付け (4) 基本構想の対象範囲 (5) 基本構想の策定の流れ 	<ul style="list-style-type: none"> ・ 「基本構想の位置付け」と「対象範囲」、「策定の流れ」を追加
	2. まちづくりの状況 <ul style="list-style-type: none"> (1) 上位計画におけるまちづくりの方針 (2) まちづくりをとりまく社会動向 (3) 東静岡地区の成り立ち (4) 東静岡地区の特徴 (5) まちづくりへのアイデア・意見(協議会、コンペ) 	<ul style="list-style-type: none"> ・ 「まちづくりの状況」を追加
1. めざす将来像 <ul style="list-style-type: none"> ● めざす将来像 ● まちづくりの将来イメージ 	3. めざす将来像 <ul style="list-style-type: none"> ● めざす将来像 ● まちづくりの将来イメージ ● 県市連携を核とした産学官の連携イメージ ● 東静岡のまちづくりによる相乗効果 	<ul style="list-style-type: none"> ・ 「県市連携を核とした産学官の連携イメージ」と「東静岡のまちづくりによる相乗効果」を追加
2. まちづくりの5つの視点 <ul style="list-style-type: none"> ① 文化・スポーツの拠点としての、まちの新たな価値づくり ② 若者や子どもが、夢や希望を持てるまちへの転換 ③ 誰もが移動しやすく、住みやすいまちづくり ④ 人々の交流や、豊かで心地良い生活を生み出す空間づくり ⑤ 緑と調和した都市環境づくり 	4. まちづくりの5つの方針 <ul style="list-style-type: none"> ① 文化・スポーツの拠点としての、まちの新たな価値づくり ② 若者や子どもが、夢や希望を持てるまちづくり ③ 誰もが移動しやすく、住みやすいまちづくり ④ 人々の交流や、豊かで心地良い生活を生み出す空間づくり ⑤ 緑と自然豊かな都市環境づくり 	<ul style="list-style-type: none"> ・ 「視点」を「方針」に変更 ・ 5つの項目は変わらない(文言は一部修正)が、各項目内の記載・イラストを充実
3. まちづくりの主要プロジェクト <ul style="list-style-type: none"> Ⓐ (仮称)静岡市アリーナ Ⓑ 新県立中央図書館 Ⓒ ペDESTリアンデッキ Ⓓ 都市計画の見直し Ⓔ 地域との連携 	5. まちづくりの主要プロジェクト <ul style="list-style-type: none"> Ⓐ 静岡市アリーナ Ⓑ 新県立中央図書館 Ⓒ ペDESTリアンデッキ Ⓓ 新たな交通システムの導入 Ⓔ 都市計画の見直し Ⓕ 里山公園(谷津山)の利活用 ○ 低未利用地を活用した新たな都市開発 	<ul style="list-style-type: none"> ・ 「新たな交通システムの導入」や「里山公園(谷津山)の利活用」、「低未利用地を活用した新たな都市開発」を追加
	6. 役割分担と今後の進め方 <ul style="list-style-type: none"> (1) 社会全体の力による「共創」のまちづくり (2) 主な役割と今後の進め方 	<ul style="list-style-type: none"> ・ 「役割分担と今後の進め方」を追加

(2) 東静岡地区まちづくり基本構想(案)の全体像

<めざす将来像>

「新たな文化・スポーツの拠点づくり」と「快適で住みやすい住環境づくり」

<まちづくりの5つの方針>

① 文化・スポーツの拠点としての、まちの新たな価値づくり

② 若者や子どもが、夢や希望を持てるまちづくり

③ 誰もが移動しやすく、住みやすいまちづくり

④ 人々の交流や、豊かで心地良い生活を生み出す空間づくり

⑤ 緑と自然豊かな都市環境づくり

<まちづくりの主要プロジェクト>

① 静岡市アリーナ【該当方針：① ② ④ ⑤】

② 新県立中央図書館【該当方針：① ② ④ ⑤】

③ ペDESTリアンデッキ【該当方針：③ ④】

④ 新たな交通システムの導入【該当方針：③】

⑤ 都市計画の見直し【該当方針：① ② ④】

⑥ 里山公園(谷津山)の利活用【該当方針：⑤】

○ 低未利用地を活用した新たな都市開発

★ 今後の検討事項(例) (基本計画作成の中で検討)

- 学生等と連携したまちづくり【②】
- アリーナ利用者を想定した交通対策の充実【③】
- 自転車を利用しやすい環境づくり【③】
- 居心地が良く歩きたくなる空間づくり【④】
- 都市緑化や、環境に配慮した都市開発【⑤】